

R A 2 0 0 0 ファイルコンバータ機能  
取扱説明書

1. 概要	2
1.1. 機能概要	2
2. インストール方法	3
2.1. インストール可能なバージョンの識別	3
2.2. インストール	3
3. 再生モニタ画面での操作	5
3.1. 変換形式の選択	5
4. 「システム」ファイル操作画面での操作	6

オムニエース R A 2 0 0 0	<b>ファイルコンバータ機能 取り扱い説明書</b>	第 2 版
-----------------------	--------------------------------	-------

## 1. 概要

本書はRA2300 / 2800(以降RA2000と総称)組み込み用のファイルコンバータ機能について記載しています。ファイルコンバータ機能を組み込むことで、RA2000で収録したデータをMATLAB、FAMOS、DIAdemで直接読み込み可能なファイルに変換することが可能となります。

同一の手順で、ロガーステーションDL2800へも本機能の組込みが可能です。

### 1.1. 機能概要

ファイルコンバータの追加により以下の操作が使用可能になります。

・対応フォーマット

MATLAB

FAMOS

DIAdem

変換可能なファイルはRA2000で収録したバイナリファイル(拡張子 .FSD , .FPP)です。

一旦変換したファイルやCSV形式のファイルを他の形式に変換することはできません。

・ファイル変換操作画面

・『システム』キー画面の「ファイル操作」タブ

・『再生』モニタ画面上部の「出力設定」で表示される画面

収録時に自動的に変換することはできません。

注意

収録したファイルサイズが大きい場合、変換に時間がかかります。

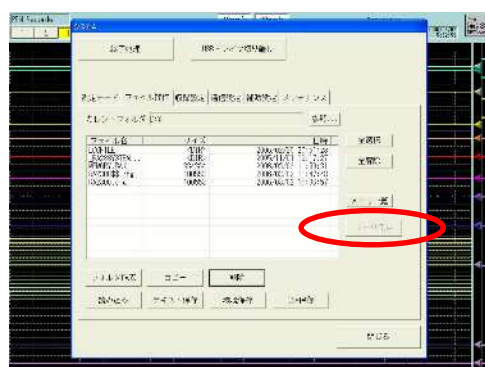
その間は他の操作を受け付けず、経過表示などは表示されません。

## 2. インストール方法

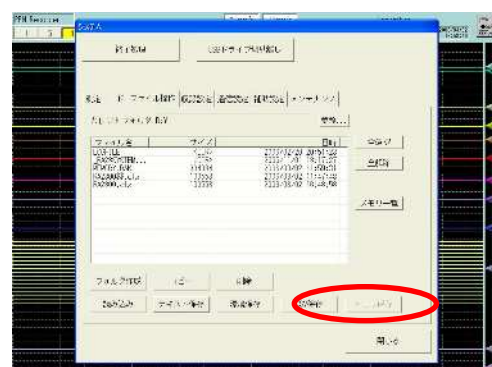
### 2.1. インストール可能なバージョンの識別

RA2300の場合、バージョンがV2.2x、及び3.1x以降の場合に有効です(xにはアルファベットの識別子が入ります)。

『システム』キー画面で、「ファイル操作」のタブを開いた際に表示される「メモリ保存」キーの位置で対応するバージョンであるかの判別が可能です。



ファイルコンバータ組み込み可能



ファイルコンバータ組み込み不可

組み込み不可の場合、プログラムをバージョンアップした後に組み込みを行ってください。  
なお、RA2800は全てのバージョンで有効です。

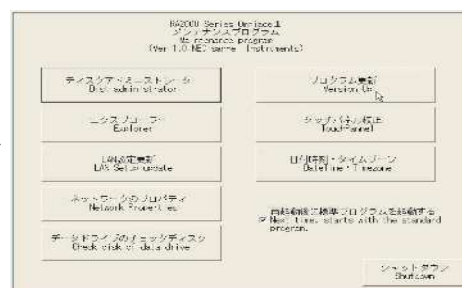
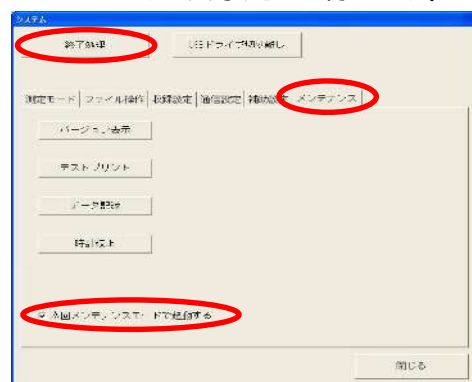
### 2.2. インストール

1: ファイルコンバータのフォルダー一式を、USBメモリにコピーします。

2: RA2000の『システム』キー画面の「メンテナンス」を開き、

次回メンテナンスモードで起動する

にチェックをつけて終了処理を行います。

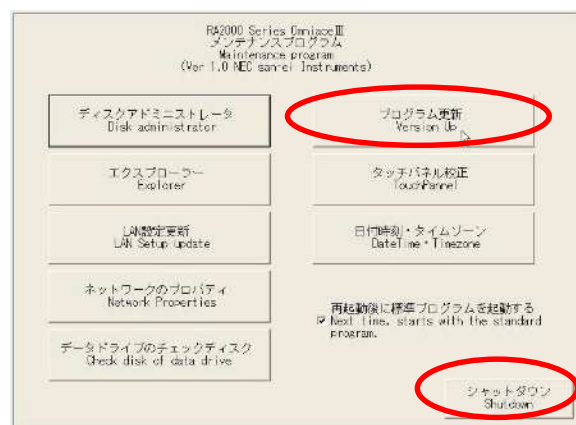


オムニエース R A 2 0 0 0	<b>ファイルコンバータ機能 取り扱い説明書</b>	第 2 版
-----------------------	--------------------------------	-------

3: フォルダをコピーしたUSBメモリを差し込んで電源を再投入すると、「メンテナンス画面」が表示されますので[バージョンアップ]キーを押してください。

4: USBメモリ(E:ドライブ)の上記フォルダを指定して「バージョンアップ」を実行してください。

5: [SUCCESS] のメッセージが表示されたら、メッセージウィンドウを閉じ「シャットダウン」キーを押してシャットダウンします。



6: 電源を再投入してください。『システム』キーの「ファイル操作」タブを開け、「MATLAB保存」「FAMOS保存」「DIADEM保存」のキーが表示されていることを確認してください。



## 注意

USBメモリにはスイッチで「書き込み禁止」に設定できるものがありますが、書き込み禁止に設定した状態でインストール、バージョンアップを行うと、それ以降のバージョンアップができなくなってしまいます。必ずUSBメモリは「書き込み可」の状態にして操作を行ってください。

## 警告

メンテナンスモードは通常の動作と異なり、レコーダのシステムに影響を与える場合があります。操作は必要な場合に限り行い、設定を終えたら速やかにメンテナンスモードを終了してください。

### 3. 再生モニタ画面での操作

収録済みのデータを表示した状態から、各種ファイルに変換することが可能です。画面上部の「出力設定」キーを押した画面で設定、変換を行います。

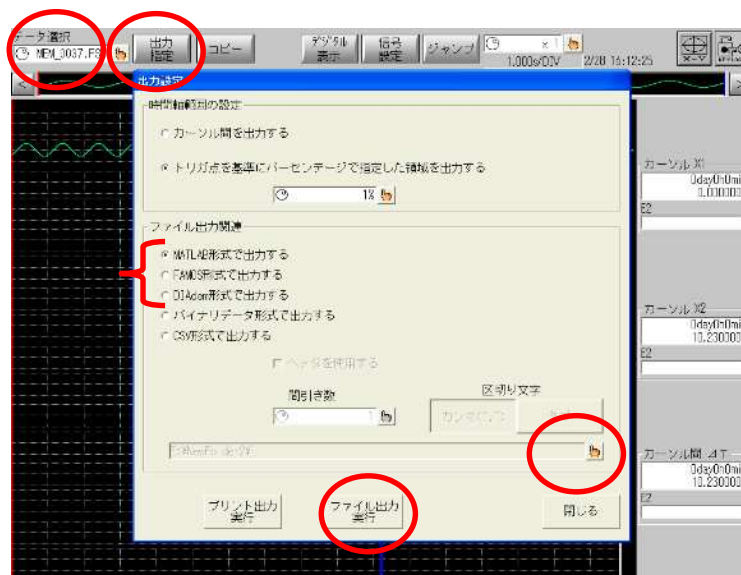
#### 3.1. 変換形式の選択

- 1: 操作パネル「再生」キーで再生画面を表示させた状態で、「データ選択」キーにより変換するデータを選択します。
- 2: 「出力設定」のキーを押し、設定画面を開きます。

3: 必要に応じて範囲設定を行います。

4: 保存先のフォルダを指定します。  
(ファイル名はもとのファイルに拡張子をつけたものになります。バイナリ、CSVの場合の様にファイル名を変更して変換することはできません)

5: 「ファイル出力実行」キーを押すと変換されたファイルが指定フォルダ上に作成されます。



注意: ファイル容量が大きな場合、変換に時間がかかります。変換の中断や他の操作はできません。

## 4. 「システム」ファイル操作画面での操作

『システム』キー画面の「ファイル操作」タブでも各種変換が可能です。複数のファイルを選択し、一度に変換することも可能です。

『システム』キーの「ファイル操作」画面

1 : 画面にタッチして変換するファイルを選択します。

タッチすると状態が反転します。  
「全選択」キーと合わせて複数のファイルを一括して選択、変換することも可能です。

2 : 変換後のファイルの書き込み先を設定します。

3 : いずれかの変換キーを押して変換を実行します。

注意 : 「メモリデータ」を直接変換することはできません。メモリデータの変換が必要な場合、一旦「メモリ保存」でファイルに保存した後にそのファイル(.fsd)を変換してください。

この画面では変換の範囲を指定することはできません。常に全域が変換対象となります。



以上